

【やりとりと判定の実例：A2◎】

<ロールカード>

あなたは今、日本にいます。デパートで、とてもいい色の服を見つけました。しかし、サイズが合いません。お店の人に相談してください。

T：テスター、S：受験者

発話例	判定の根拠
<p>T：いらっしゃいませ。 S：えー、すみません。私はこの服が、あー、好きです。色が好きです。でも、サイズはちょっと大きいです。もっと小さいのサイズがありますか。① T：小さいサイズ。ちょっと探してきますね。すみません、このサイズはもうね、えーとこれで終わりなんです。A S：あー、これだけです。ね。 T：こっちの色だったらありますけど。このサイズ。B S：でも、この色が好きですから、<あ、そうですか>あー、残念ね。② T：はい、わかりました。すみません。 S：じゃあ、また来ます。 T：えっと、あと一週間ぐらいしたら、あのう。 S：一週間？ありますか？ じゃあ、来週またここに来ます。③ T：わかりました。ありがとうございます。</p>	<p>① 欲しい物を伝えて相談できる = 苦労なく簡単な言葉で 応じ、タスクが達成できる</p> <p>② 簡単な感想を自分から言う ことができる</p> <p>③ 簡単な情報を自分から話 することができる</p>

この例では、自分に合うサイズがないことをお店の人に相談できたかどうかで、タスクが達成できたかどうか判断します。この例では、①の発話により、達成したと判断できます。

更に、何とか達成（○）か、十分に達成（◎）かを判断するために、テスターはA、Bで「この色で他のサイズは無い。別の色だったらある」と働きかけます。それに対し、受験者は②③のように簡単な自分の見解を付け加えています。判定の指標に照らし、最終的にこの受験者は◎と判定します。